

# OR的問題の所在と活用の促進

01700140 沖電気工業(株) 柳沢 滋 YANAGISAWA Sigeru

オペレーションズ・リサーチが経営の科学として、より幅広く活用されるために、今なにをしなければならぬかを探るため、OR的問題の所在と、その問題が発掘される形態を分類してみた(表-1)。

表-1 OR的問題の所在と発掘のパターン

	問題の所在	問題所有者と解決者	問題の形態	問題の発掘
施策・戦略型		所有者と解決者は一般には組織的に分離されている。	①問題として浮上り ②問題としてまだ浮上していない。	解決者側が提案。 解決者側が問題提起・提案。
戦術・課題型		所有者と解決者は組織的に上下関係にあることが多い。	戦術策定/見直しの必要性、システムの不具合などとして意識。	所有者のゴールイメージをもとに問題絞り込み。
問題解決型		ほとんどのケースでは所有者イコール解決者である。	日常の不都合さとして潜在的・顕在的に感じている。	問題として認識後解決のための行動開始。

さらに、表-1の分類をもとに、オペレーションズ・リサーチをもっと活用してもらいたいには何が必要なのかを、現状の反省に基づいてリストアップした(表-2)。

表-2 O Rをもっと活用してもらいたいには

	O Rのねらい	O Rをもっと使ってもらいたいには	キーワード
施策・戦略型	役に立つO R	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 時代を先取りした問題提起・問題解決。</li> <li>* 問題所有者への積極的な売り込みと新手法の開発。</li> <li>* O R屋の連携強化と海外・他専門分野との協調。</li> <li>* 経営科学としての体系化とマネジメント指標の提供。</li> <li>* 情報システムツールの開発・提供。</li> <li>……問題所有者へ…… ……問題解決者へ……</li> <li>* タイムリーな有益性P R。* スピーディーな</li> <li>* テーマ別解決事例の提示。解決ストーリーの提供。</li> <li>* O RストーリーJrの開発と提供。</li> <li>* O R的アプローチの事例提示と入門講座開催。</li> <li>* 手法の“道具”レベルへのブレイク・ダウン。</li> <li>* 素人にも使えるソフト・パッケージの提供。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 受託研究の拡充。</li> <li>② 横の連携強化。</li> <li>③ 体系化と経営指標づくり。</li> <li>④ 問題所有者説得のためのツールづくり。</li> <li>⑤ O RストーリーJrの開発。</li> <li>⑥ O R的アプローチ事例集。</li> </ul>
戦術・課題型	使い易いO R		
問題解決型	O Rを意識しないO R		

このリストをもとに、オペレーションズ・リサーチ発展のための具体策を提起していきたい。